

JEA12年ぶりに韓国の福音派と宣教協力調印 異端問題も情報共有

2025年9月3日

ニュース



韓国 UCCK と JEA 関係者たち。中央左が金氏、右が水口氏。東京・お茶の水クリスチャン・センターで

日本福音同盟（JEA、水口功理事長）は、12年途絶えていた韓国福音派との間での、宣教協力の調印を交わした。韓国福音派の代表的な連絡組織、韓国教会総連合

（UCCK）代表の金鍾革（キム・ジョンヒョク）牧師らが9月3日、来日し、東京・

千代田区の JEA 事務所を訪問したことで実現した。

調印内容は①平等な立場での協力と北東アジアの平和と福音宣教、②異端団体の情報共有、神学的対応、③定期的交流と宣教協力の模索、④相互の歴史、制度、運営の尊重と持続可能な協力の模索、だ。

韓国の福音派においては異端問題などにより組織分裂があり、JEA は CCK（韓国キリスト教総連合会）との宣教協力を 2013 年までに解消していた。近年 UCCK が韓国主要教団から成る宣教協力団体の再編を進めており、交流が活発化した。8 月には、JEA 代表らが、UCCK 主催の光復節 80 年記念礼拝および式典に出席した。

調印式では、韓国、日本の代表者が集まり、あいさつを交わした。水口功 JEA 理事長は、まず光復節 80 年記念式典を振り返り、「式典での私のあいさつの後に、金鍾革 UCCK 代表が、応答し、日本の犯した侵略の罪を決して忘れることなく、その深い悔い改めの土台に立って宣教協力するという未来志向について解き明かしてくれた。この姿勢は、JEA のこれからの韓日関係の基本的な姿勢だと考える」と述べた。

6 月の JEA 総会で採択した『戦後 80 年にあたっての JEA 声明』では、戦後 80 年の決意として、『戦時下における日本の教会の罪の歴史を学び、悔い改めを深め』、次世代『過去の罪を伝える責任を誠実に果たすこと』、『世界及びアジアの諸教会とともに平和をつくること』を誓った。「この上で宣教協力がなされる。その思いを改めて光復節

の集会で心に刻んだ。そして驚いたことに、9月に UCCK の代表の皆さんが来日することを知り、こんなに早くも宣教協力の覚書を交わすことが可能になった。主の導きを感謝します」

金鍾革 UCCK 代表は、宣教協力の覚書を取り結ぶにあたって、「キリストの福音に結びつき、お互い協力することが大事。福音には国境はない。人種、国の差別もない。十字架の福音を信じる者には、誰でも救われる特権が与えられた。日本の皆さんは、兄弟姉妹であり、神の家族。韓国と日本は近い国で、歴史を振り返れば、友達のように親しい時もあったが、戦争をしたときもあった。日本と韓国の教会に課せられているのは、お互いが力を合わせ、キリストの福音によって両国に平和をもたらし、福音を広げていく使命だ」と語った

「神様を知り、人間の尊厳を知り、平和を知ることが出来る」とも勧めた。「キリストにあって、いのちを尊重し、平和を尊重する両国の働き人となることを願う。次の世代、若い働き人がお互い力を合わせ、まだ福音が宣べ伝えられていないところに一緒に出掛ける夢を実現させたい。この調印締結式に、聖霊が共にいて、主が私たちの心と思いを捉えてくれることを願います」



金氏と水口氏

水口理事長は調印式を振り返り「8月の光復節記念式典から非常にスピーディだったが、この調印は、1つの始まりだと思う」と述べた。8月の韓国訪問にも参加した石田敏則前 JEA 理事長（総務局アドバイザー）は、「2023 年の第七回日本伝道会議で韓国福音主義協議会（KEF）代表者らが来日くださったことから、JEA と韓国の福音派の交流再開が活発化してきた流れがある。この数か月の展開は早かったが、以前から両国で期待されていたことだった」と話した。

韓国では、昨年 9 月の第四回ローザンヌ世界宣教会議、今年 10 月には、世界福音同盟

(WEA)の総会開催、と世界の福音派の宣教協力促進の場となっている。WEA 総会では、イエス・キリストの死、復活、昇天、そしてペンテコステにおける聖霊降臨の2000周年を記念し、大宣教命令と「2033年までにすべての人に福音を」というビジョンをテーマとする。